

はじめに

日頃より市民の皆様はじめ関係者の方々には、豊田市矢作川研究所の調査研究活動及び運営に、多大なるご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。このたび、1年間の調査研究成果を取りまとめた「矢作川研究 No. 26」を発刊することができました。これもひとえに皆様のご助力の賜と深く感謝いたします。

2021年は、いまだ新型コロナウイルス感染症の終息を見ることができず、当研究所でも会議や打ち合わせなどリモートで実施することが多くなりました。また例年ならばシンポジウムの中で発表していた研究成果も動画配信でお届けすることといたしました。今回のテーマは「身近な小川を再生しよう～ふるさとの川づくり事業～」と題し、当研究所研究員からの事業報告と岐阜大学流域圏科学研究センターの原田守啓先生による事例紹介の講演を分割して豊田市公式 YouTube チャンネルから配信しています。ぜひご覧いただき、ご意見をいただきましたら幸いです。また同じ内容を本誌にも掲載しております（89ページから110ページまで）。

現在、矢作川流域でも気候変動により災害リスクが増大していることから、放流能力を増強するための矢作ダム再生、矢作ダム湖内へ土砂が貯まるのを防ぐ土砂バイパスの整備、流下能力を向上させる樹林伐採や河道掘削など大規模な治水事業が進行しつつあります。これらの河川整備は河川環境へも大きな影響を及ぼすものであり、とりわけ土砂の連続性が回復することにより水生生物の生息環境の改善が期待できることから、当研究所も連携し、環境面から河川整備の進捗を支えていく調査研究を進めていく考えです。こうした研究の成果が治水や利水面でも市民生活の豊かさにつながるよう努力してまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和4年1月

豊田市矢作川研究所 所長
酒井 齊